

「話すこと・聞くこと」の能力を高める指導の工夫

～スピーチ学習の帯単元化を通して～

那覇市立鏡原中学校教諭 知念 常美

テーマ設定の理由

国際化・情報化とめまぐるしく変化する社会の中で、映像文化の拡大、インターネット・携帯電話の普及は、子どもから対話を通してはぐくまれる日本語本来の豊かな語彙や表現力を奪いつつある。また、最近頻発している少年犯罪は、改めて人と人とが対話すること、すなわちコミュニケーションの必要性和重要性を痛感させる。

このような時代背景を踏まえ、中学校学習指導要領において、国語科では、「伝え合う力」の育成が大きな目標となっている。「伝え合う力」とは、「適切に表現する能力と正確に理解する能力を基盤に、人と人との関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら言葉によって伝え合う力」のことである。

そのような視点から生徒の実態を見てみると、私的な話は好むが、人前できちんと自分の気持ちを話すことが苦手である。また、話を漠然と聞いて大切な情報を聞き逃したり、相手の意図を考えながら聞き取ることが不十分な生徒も多い。これでは、本当の「伝え合う力」が作用しているとはいえず、円滑な人間関係を形成することは難しい。自分の考えや気持ちを整理し、相手に理解してもらえるように的確に話したり、他者の話を共感的に受け止め、正しく理解しながら聞くことが相互理解の第一歩であり、それが、自他を尊重することにつながると考えるからである。そこで、相互交流的な言語活動を通して「話すこと・聞くこと」の能力を高め、「伝え合う力」を育成することは、緊要な課題であると考えた。

これまでの私自身の実践を振り返ってみると、「話すこと・聞くこと」の指導に関しては、継続的な指導が不十分であった。また、その指導も「話すこと」の技術的な指導にのみ重点が置かれ、「聞くこと」の指導は、「人の話は、静かに目と耳で聞く」というしつけ的な指導にとどまっていた。今回の改訂で「話すこと・聞くこと」が再び一つの領域になったことは、この二つの言語行為が一体的なものであり、双方向性を有することによって初めて機能するということを示している。

このような反省を踏まえ、本研究では、まず、生徒の実態を把握した上で、双方向のスピーチ学習の帯単元化を図り、継続指導を続けるとともに、「話すこと・聞くこと」の一体化した指導を工夫することで、「話すこと・聞くこと」の能力が高まるのではないかと考え、本テーマを設定した。

研究目標

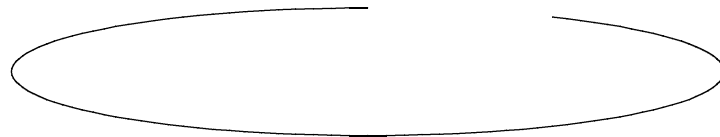
「話すこと・聞くこと」の能力を高めるために、双方向のスピーチ学習の帯単元を作成し、継続指導および「話すこと・聞くこと」の一体化した指導の工夫について研究する。

研究の方針

- 1 スピーチ学習の帯単元を作成する。

- 2 スピ - チ学習が、「話すこと・聞くこと」の一体化した学習になるように指導の工夫をする。

研究構想図



研究内容と方法

1 「話すこと」「聞くこと」の領域統合と身に付けさせたい力

(1) 「話すこと」「聞くこと」の領域統合の意図

平成 10 年 7 月の教育課程審議会の答申において、国語科では、「豊かな言語感覚を養い、互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う能力の育成」に重点を置いて、内容の改善が図られた。それに伴い、「自分の考えをもち、論理的に意見を述べる能力、目的や場面などに応じて適切に表現する能力、目的に応じて的確に読み取る能力や読書に親しむ態度を育てること」が重視され、昭和 52 年の学習指導要領の改訂で「表現」領域、「理解」領域に分断されていた「話すこと」と「聞くこと」が再び一つの領域にまとめられ、「A 話すこと・聞くこと」の領域となった。これは、「話すこと」「聞くこと」は一方向の活動ではなく、双方向の活動によって初めてコミュニケーションが成立するのであり、「話すこと・聞くこと」を一体的に捉えて指導していくことが「伝え合う力」の育成につながるということを示している。

平成 16 年 2 月 3 日に出席された文化審議会国語分科の「これからの時代に求められる国

4 スピーチ学習における指導の工夫

(1) ワークシートの作成と活用

学習のねらいや進め方がわかるような手引きとしてのワークシート、苦手意識の多い話題選定、話材探し、原稿作成を支援するワークシート、お互いの良さや改善点に気づき、次への見通しがもてる評価表としてのワークシートの3種類を作成し、授業の展開に沿って活用していく。

手引きのワークシートとしてスピーチ会では、図2のように目標や進行の仕方、シナリオを取り入れたワークシートを作成し、スピーチ会がスムーズに進行するようにする。

話題選定、話材探しのワークシートでは、生徒の実態調査でわかった身近な話題や興味・関心のある話題を例として提示し、話題選定の後、生徒が楽しみながらウエビングで話材を膨らませることができるようになる。

評価表としてのワークシートでは、話すとき、聞くときの観点を明確にした相互評価表、話し手、聞き手としての自分の態度を振り返ることのできる自己評価表を作成し、「話すこと・聞くこと」の能力を高めるようにする。

(2) 相互交流の工夫

スピーチ学習において、話し手を温かく受け入れ、話し手と聞き手がお互いの考えを気兼ねなくやりとりする相互交流の場を設けることが、苦手意識を克服し、スピーチをした満足感や自信につながると考える。そこで、スピーチ会の後、交流の場を設け、心の交流を図るようにする。

人前で話すことの抵抗感を少しずつ解消していくために、ペア、小グループ、全体と段階を踏んで交流の場を広げていくように学習形態を工夫する。

交流がスムーズにいくように評価の観点を明確にした相互評価表を活用する。また、相互評価表には、話し手へのメッセージも記述できるようにする。

スピーチ学習では、スピーチ終了後、「心のキャッチボール」と名付けた交流の場で、話し手は男女各1名を指名し、3名で交流を行う。話し手の進行のもと、聞き手は、話し方や内容で良かった点、もっと工夫が必要な点、一番印象に残ったところ、話し手への質問、スピーチを聞いてキャッチした話し手の良さを発表する。

話し手の意欲を高め、自信を持たせるために、授業後、聞き手からのメッセージを綴って話し手に贈ったり、国語通信を発行し、スピーチ会で交流できなかった生徒の声や教師の激励の言葉を伝える。

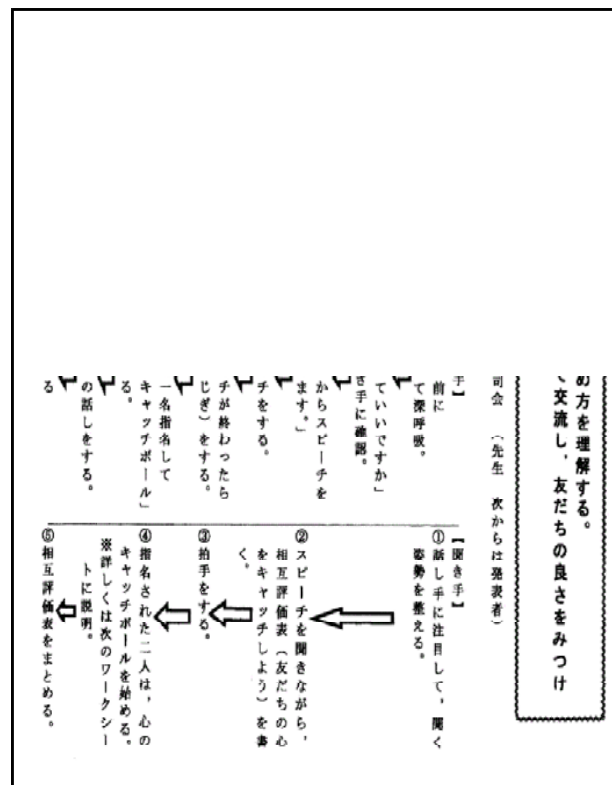


図2 ワークシート（スピーチ学習の手引き）

授業実践

1 単元名 スピーチ学習

2 教材名 「スピーチで交流し、話し上手、聞き上手になろう」

3 単元目標

(1)スピーチ学習の意義や目的について理解し、スピーチをしたいという意欲をもつ。

【関心・意欲・態度】

(2)自分の考えや気持ちをわかりやすく話したり、話し手の意図を考えながら、話の内容を的確に聞き取ったりする。

【A話すこと・聞くことア】

(3)自分の考えや気持ちを的確に話すためにふさわしい話題を選ぶことができる。

【A話すこと・聞くことイ】

(4)伝えたい事実や事柄、自分の考えや気持ちを明確にすることができる。

【B書くことイ】

(5)話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方などに注意して話したり聞いたりする。

[言語事項(1)ア]

4 単元について

(1) 教材観

本単元は、スピーチ学習の3回目となる。生徒は4月のスピーチ学習で、自己紹介を通してお互いの特徴を理解し合い、仲良くなるきっかけを作った。7月から9月にかけてのスピーチ学習では、意見発表を通してそれぞれが今どんなことに興味・関心をもち、どんな意見をもっているかを知ることができた。

今回の「スピーチで交流し、話し上手、聞き上手になろう」は、スピーチ学習単元の最後の教材となる。話し手と聞き手の相互交流に重点を置き、「自分の良さを伝える」というスピーチ学習を通して、「話し上手、聞き上手になろう」ということを目標にしている。同じ流れの学習を繰り返すことで、「話すこと・聞くこと」の能力が身に付くだろうと考え、50分授業を3回行った後、週に2回、授業の初め15分を使い、2人ずつのスピーチ会に取り組みさせる。スピーチ学習で培われた「話すこと・聞くこと」の技能、内容、態度に関する基礎的な力が、「心のキャッチボール」と名付けた相互交流の場を設けたスピーチ学習を通して、高まっていくと考える。

(2) 生徒観

明るく元気で、話好きな生徒が多い。しかし、思ったことをすぐ口に出して誤解を受けたり、人の話をじっくり聞いたりすることが苦手な生徒もいる。

4月より、「話すこと・聞くこと」の力をつけたいと考え、絵本の読み聞かせや全体朝会の話の要約等に取り組んできた。聞く姿勢は少しずつ身についてきたが、まだ、不十分である。

2学期に行った「話すこと、聞くこと」に関する実態調査では、人前で話すことが好きだと答えた生徒は、11.1%と少なく、嫌いな理由として、「はずかしい」「何を話していいかわからない」という回答が多かった。しかし、話し上手、聞き上手になることは自分にとってプラスになると考え、是非、そうなりたいと考えている生徒も91.7%と多い。

このような結果から、作成したワークシートを効果的に活用し、個別指導を充実した上

で、「話すこと・聞くこと」の能力を高め、互いの立場や考えを尊重しながら、言葉によって伝え合うことのできる生徒を育てたい。

(3) 指導観

スピーチ学習 「スピーチで交流し、話し上手、聞き上手になろう」では、声の大きさ、速度、間の取り方、発音、表情や姿勢、内容など「話し上手・聞き上手」の観点を意識させ、継続して指導していく。

具体的な指導の工夫としては、一つ目に、学習のねらいや進め方のはっきりした手引きとしてのワークシート、話題選定から原稿作成までを支援するワークシート、話し手、聞き手としての観点を明確にした評価表としてのワークシートを作成、活用していく。

二つ目に相互交流の場としての「心のキャッチボール」を設定し、話し手と聞き手が、意見や感想の交流を通してお互いのよい点や改善点に気づいていくことができるようにする。

5 指導計画（p53参照）

6 本時の学習

(1) 目標

スピーチ会の目標や進め方を理解し、自分の良さを伝えるために工夫して話したり、相手の良さを知るために注意して聞いたりする。

(2) 本時における具体的な手立て

スピーチの練習、模擬スピーチ会、スピーチ会とペア、全体と二つの交流の場面を設定し、お互いの良さや改善点に気づいていくようにする。さらに、スピーチ会がスムーズに進行するわかりやすい手引きや、観点を押さえた評価表などワークシートを工夫して作成、活用することで、「話すこと・聞くこと」の能力を高めていくことに迫りたい。

(3) 本時の展開

場	学習活動と内容	教師の支援	評価	資料等
導入 5分	前時を振り返り、話し上手、聞き上手について考える。	話し上手、聞き上手の条件を具体的に挙げさせ、フラッシュカードで提示し、全体で確認させる。		フラッシュカード
展開 40分	- 今日のねらい「交流を通して、話し上手、聞き上手になろう」を理解する。 - ペアになって練習し、お互いの良かった点、工夫した方がよい点をアドバイスカード（ワークシート）に書いて、交換し合う。 - 模擬スピーチ会でスピーチ会のねらいや進め方を理解する - 自分の良さを伝えるために、工夫して話したり、話し手の良さを知るために、聞く	- 今日のねらいをフラッシュカードで提示し、全員で読んで確認させる。 - ワークシート に沿って説明し、全体で確認させる。練習中は、机間指導をしながら、練習がうまくいっていない生徒には、ペアでやる意義や目的を理解させ、観点に沿って工夫して話したり、聞いたりするようにアドバイスする。 - ワークシート に沿ってスピーチ会の進め方、シナリオ、「心のメッセージ」（相互評価）の書き方を説明する。初めてのスピーチ会なので、教師が司会者になり進行する。生徒が戸惑	- ペアで意欲的に練習に取り組む中で、お互いの改善点に気づき、工夫しようとしている。（関心・意欲・態度）観察・相互評価 - 自分のことを知ってもらうために工夫して話したり	- フラッシュカード - ワークシート（手引き） - ワークシート（アドバイスカード） - ワークシート（手引き） - ワークシート（手引き） - ワークシート

	観点に注意してスピーチを聞き、「心のメッセージ」(ワークシート)に記入する。	う時には支援する。必要場合は、進行を止め、全体で確認し進める。	相手の良さや改善点に注意して聞き取ったりしている。 (話すこと・聞くこと)観察・相互評価、自己評価	(相互評価) スピーチの進行表 ビデオカメラ
まとめ 5分	- 今日の学習で気づいたことを自己評価表にまとめる。 - 次時の予告を聞く。	- 次のスピーチ会への課題を明確にし、全体に確認させる。 - 今日発表した生徒の良かった点をほめ、次回発表する生徒の確認、激励をし、意欲を引き出すようにする。 - 原稿が不十分な生徒は個別に指導する。		ワークシート (自己評価)

結果と考察

スピーチ学習の帯単元化を図り、ワークシートの作成と活用、相互交流のあり方を工夫することによって、「話すこと・聞くこと」の能力を高めることができるであろう。

手立て1 ワークシートの作成と活用

生徒の苦手意識の多かった話題選定、原稿作成を支援するワークシートの作成、活用についてSさんのワークシートと授業後の生徒の感想から検証する。

【結果】

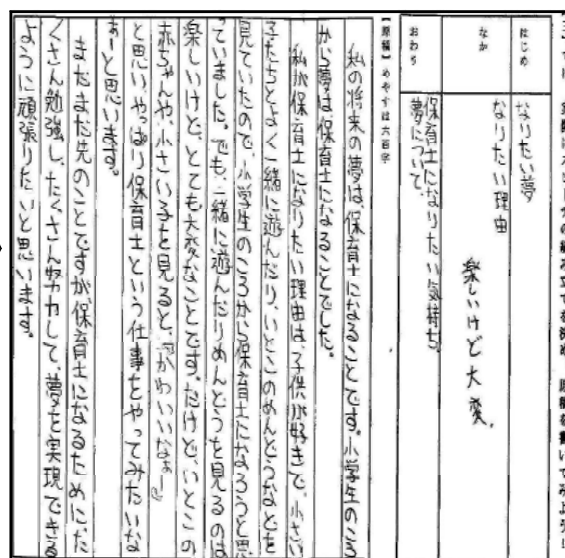
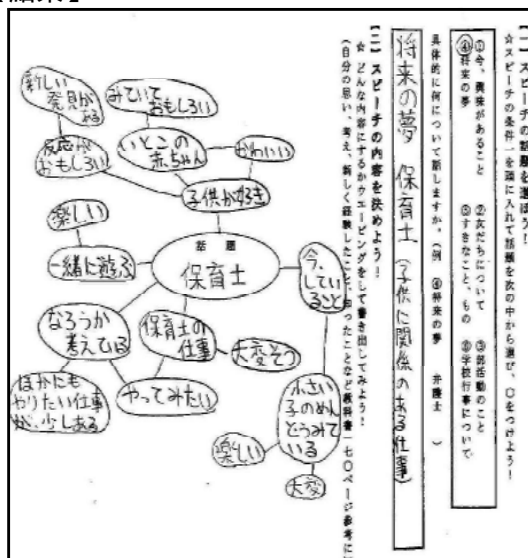


図3 Sさんのワークシート(話題選定) 図4 Sさんのワークシート(構成・下書き)
授業後の生徒の感想(自己評価表のワークシートより)

- 今までのスピーチでは、何を話したらいいかわからないというのが私の一番の悩みでしたが、今回の学習では、自分の良さを伝えるというねらいやウエビングで内容を考えるワークシートを使ったので、とても書きやすかったです。自分の良さも書けたと思います。
- ワークシートを使ったので、授業の内容がよくわかり、原稿もいつもよりスムーズに書くことができた。ウエビングもなれていたもので、すぐできた。

【考察】

「何を話していいかわからない」といった生徒の苦手意識を考慮し、話題選定、話材探しでは、図3のワークシートを活用した。事前アンケートの結果を踏まえ、生徒が興味を持って取り組めるような話題を例示し、さらに、話材探しでは、具体的な内容のイメージが膨らんでいくようウエビングに十分時間をとって取り組ませた。そうすることによって構成、下書きと発表原稿作成の流れがスムーズにいくように工夫した。Sさんは、図3のように、話題選定で、「将来の夢」を選び、具体的には保育士になりたいという夢について話すことに決めた。話材探しでは、ウエビングによって保育士の仕事の良さや大変さや子どもが好きな理由などイメージが膨らみ、構成、原稿作成までスムーズに行き、図4のような原稿を完成することができた。他の生徒の感想からもワークシートを使ったことで、これまでより話題選定や話材探しに意欲的に取り組み、その結果、原稿作成がうまくいったことがわかる。原稿作成がうまくいったことで自信を持ったSさんは、スピーチ会で一番に発表することを希望し、当日は、十分練習を積み、原稿を暗記してスピーチを行うことができた。生徒の苦手意識を支援するためのワークシートを作成・活用したことで、生徒は自分の考えを大切にし、話題選定、文の整え方、話の展開の仕方を的確に判断して、自分の良さを言葉によって伝えることができたと考えられる。

手立て2 相互交流の工夫

スピーチが終わった後、「心のキャッチボール」と名付けられた交流場で話し手と聞き手2人の計3人が、スピーチの良かった点や改善点、初めて知った話し手の良さ等について意見のやりとりをする。生徒の応答、ワークシート、授業後の感想から検証する。

【結果】

聞き手K君：すごく良い内容で、小祿の良さがT君っぽく書かれていたところがとても良かったです。あともうちょっと大きな声ではっきりと話すと良かった。一番印象に残ったところはT君が、小祿の旗を持ちたいというところです。T君に質問です。何歳ぐらいになったら、那覇祭りで小祿の旗を持ちたいですか。

話し手T君：高校生になったら持ちたいです。

聞き手K君：T君の小祿が本当に好きだと言うことがわかりました。

・・・あと1人とのやりとり省略・・・

話し手T君：緊張して声の大きさが十分でなかったけど、みんなが真剣に聞いてくれて嬉しかったです。

図5 K君とT君の「心のキャッチボール」

話し手 (C) (さんへメッセージ)

保育士になりたいと持ちたが、きりたあてで、声の大きさを調整し、話の運びもスムーズで、よかった。私の興味のある内容だったので、小学校の何年生ぐらいになったら、と思えた。

聞き手 (C)

とても良い内容で、小祿の良さがT君っぽく書かれていたところがとても良かったです。あともうちょっと大きな声ではっきりと話すと良かった。一番印象に残ったところはT君が、小祿の旗を持ちたいというところです。T君に質問です。何歳ぐらいになったら、那覇祭りで小祿の旗を持ちたいですか。

話し手 (C) (さんへメッセージ)

保育士になりたいと持ちたが、きりたあてで、声の大きさを調整し、話の運びもスムーズで、よかった。私の興味のある内容だったので、小学校の何年生ぐらいになったら、と思えた。

聞き手 (C)

とても良い内容で、小祿の良さがT君っぽく書かれていたところがとても良かったです。あともうちょっと大きな声ではっきりと話すと良かった。一番印象に残ったところはT君が、小祿の旗を持ちたいというところです。T君に質問です。何歳ぐらいになったら、那覇祭りで小祿の旗を持ちたいですか。

図6 Cさんのワークシート「相互評価」

【考察】

「心のキャッチボール」において、聞き手K君は、話し手T君の良さを認め、観点に沿った適切なアドバイスをするだけでなく、小祿の旗を持ちたいというT君の思いに共感し、それがいつ実現できるのかということに興味を持ち、質問している。話し手T君も、観点に沿って改善点を発表し、さらに、真剣に聞いてくれた聞き手に対する嬉しさを伝えている。また、図6の相互評価

いっちはあまり発表する方ではないので、とっても緊張しました。終わってみると、やってよかったと思います。スピーチ会の進め方も理解することができました。

図7 話し手Aさんの感想（自己評価）

人のスピーチがこんなに楽しいと思わなかった。スピーチをしていた人のいいところもわかった。クラスみんながスピーチをして終わったころには、もういいクラスになっていそうと思った。

図8 聞き手Bさんの感想（自己評価）

スピーチ会を通して学級全体の交流が図られるかもしれないというこれからの15分のスピーチ会に対する期待も述べられている。これは、「自分の良さを伝えよう」という学習のねらいに沿って、話し手と聞き手が心の交流を行えるように相互交流の場として「心のキャッチボール」を設定し、スピーチ学習を双方向性の学習になるよう工夫したからだと考える。

手立て3 スピーチ学習の帯単元作成

話し手、聞き手がお互いの意見を言葉で伝え合う双方向の交流型スピーチ学習を年に3回計画し、帯単元化を図ったことが、「話すこと・聞くこと」の能力を高めるのに有効であったか、アンケート結果や生徒の感想から検証する。

【結果】

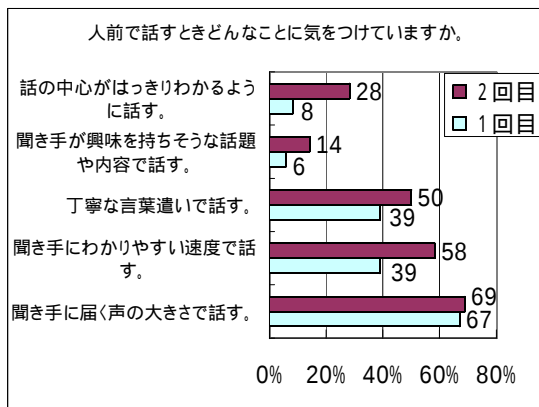


図9 「話すことの観点」

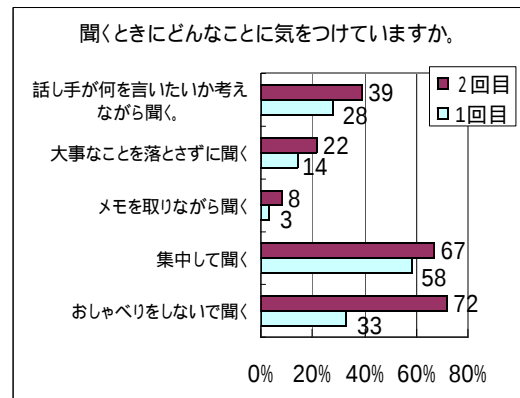


図10 「聞くことの観点」

T君の感想

- 1 時間目・・・交流型スピーチがよくわからない。できるか不安。
- 2 時間目・・・小祿の良さを書くことに決めた。原稿を書くのは苦手だけど、一番に発表したい。
- 3 時間目・・・今日は話し手の自分をみんな真剣に聞いてくれてとてもうれしかった。緊張して大きな声が出せなかったけど、原稿を見ないで発表できて良かった。
- 8 回目のスピーチ会後の感想・・・自分でも集中してスピーチを聞けたと思います。話し上手、聞き上手に近づいていると思います。

【考察】

スピーチ学習に取り組む前と15分のスピーチ会を5回行った後にアンケートを取り、その結果を図9、図10のようにまとめた。この結果から、交流型スピーチ学習の帯単元

化を図り、継続的に指導することによって、生徒は少しずつではあるが、話すことの観点、聞くことの観点を共に意識して学習に取り組んでできていることがわかる。また、T君の感想からも不安に思っていたスピーチ学習が、話題選定や、話材探しにおけるワークシートの工夫や個別指導により、満足のいく原稿を完成できたことで発表への意欲が高まったことがわかる。本番では、緊張して大きな声が出せなかったと反省しているが、発表できたことの満足感から、しだいに「話すこと・聞くこと」の観点を意識して、聞き手としても意欲的に授業に臨み、「話し上手・聞き上手」に近づいていることを実感している。他の生徒の発表する話題や内容も、スピーチ学習、スピーチ学習に比べ、「将来の夢」「部活動での悩み」「学校行事を通して感じた自分の役割」など、次第に自己の内面に関するものが増え、表現内容に深まりが見られる。これは、スピーチ学習を帯単元化し、「話すこと・聞くこと」の学習を繰り返し行うことによって、「伝え合う力」が高まりつつあることの表れだと考えられる。しかし、生徒の自己評価の中に、帯単元化してスピーチ学習を繰り返すことに効果を実感できない感想も見られるので、個人指導や新たな手立てを考える必要がある。

研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

- (1) 話題選定、構成、原稿作成、推敲、スピーチ会という一連の流れの学習を繰り返すスピーチ学習の年間を見通した帯単元の計画が作成できた。
- (2) ワークシートの作成と活用を通して、生徒が自分の良さを伝える話題選定ができたことや「話すこと・聞くこと」の観点が明確になり、生徒が常にその観点を意識して意欲的に授業に取り組むようになった。
- (3) 相互交流の工夫を通して、話し手に満足感と自信が生まれると同時に、聞き手としての力も身に付き、相互理解が深まり、「伝え合う力」が高まりつつある。

2 今後の課題

- (1) 「話すこと・聞くこと」の能力を高めるための中学校3年間を見通した意図的、計画的な年間指導計画の作成。
- (2) スピーチをすることに苦手意識を持っている生徒への支援の工夫。
- (3) 限られた時間内での効果的な相互交流の工夫。

《主な参考文献》

「中学校学習指導要領解説 国語編」	文部省	東京書籍	1999
「中学校の表現指導 聞き手話し手を育てる」	安居総子	東洋館出版社	1994
「国語科で育てる相互交流能力 中学校編」	村松賢一・花田修一・若林富雄	明治図書	2000

《資料》 ビデオ教材「これから私の話を始めます」川崎市立中原小学校 笠原登教諭の実践企画 日本児童教育振興財団 制作 グループ現代